

## ～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

### ◆VCN°4 ドメーヌ・ド・ヴェイユ

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

#### AC シュヴェルニー ドメーヌ・ド・ヴェイユ 2015 (白)

2015年は例年通りの収量を確保できているので、100%ドメーヌのブドウでワインを仕込んでいる！日照りでブドウの粒が小さく、アルコール度数も高めだが、出来上がったワインは、酸とミネラルを柱に清涼感に溢れ、とてもバランスが良い！またしっかりと旨味も凝縮しているので、コクのある料理でも合わせられる！

#### AC クレマン・ド・ロワール 2014 (白泡)

2014年は花ぶるいに遭い、3年連続となる低収量となってしまった。そのため入荷量が少なくスポットでの販売となってしまふ…。味わいは2013年同様にドザージュの量を2.5g/L例年の半分に減らして、アルノー好みのエクストラ・ブリュットに仕上げている！彼曰く、ドザージュの量を減らすことにより、ムニユピノの個性がより際立ってくるとのこと！前年同様に、キレのある酸と、滋味なミネラルの旨味は健在で、心地よい苦みとムースの刺激が食欲をそそる！ちなみに、アルノーの勧める料理との相性は、味わいのコンプレックスを求めるなら貝料理、クレマンのほろ苦さをマスクするなら野菜のスープやデザートタルトが良いとのこと！

#### ミレジム情報 当主ミッシェル&アルノー・ケニオのコメント

2014年は、2013年同様に花流れに泣かされた年だった。4月下旬まで気温がまるで初夏のように暑くスタートはとても順調だったのだが、5月に入り一転日中でも肌寒く雨の多い日が続く、ブドウの成長に大きくブレーキがかかってしまった。気温が急激に下がったショックなのか、ブドウの果穂が開花まで持ちこたえられず多くがそのまま蔓に変わってしまった…。加えて、6月も湿度が高く気温が上がらなかったため、開花の時期が揃わず、まばらで結実不良のブドウが多く目立った。その後も、8月まで不安定な天候が続く、まわりの畑ではミルデューが猛威を振るっていたが、幸い我々のドメーヌはミクロクリマにより雨が少なかったことと、ボルドー液散布による病気予防がうまく功を奏したおかげで被害は最小限に食い止めることができた。8月の終わりから一転天候が急回復し、ブドウも遅れを取り戻すかのように一斉に成熟し始めたが、最後の最後で一部ピノとコー、カベルネフランがショウジョウバエの「スズキ」の被害にあった…。

2015年は、日照りの年だったが、結果的には2010年のようなバランスの良いワインが出来上がった！春のスタートは雨も比較的多く涼しい気候で、発芽もやや遅れていたが、5月に入り雨の降らない乾燥した天気が8月いっぱいまで続いた。雨が降らなかったおかげで開花もうまく行き、ブドウの病気はほとんど蔓延することがなかったが、夏の日照りの影響でブドウの成長にブレーキがかかってしまった…。ブドウの房の数は多かったが、結局水不足のため実が大きくなり、粒の小さいまま収穫を迎えた。収穫をして驚いたのだが、豊作と置いていざブドウをプレスすると、ジュースが思っていた以上に少なく、最終的にソーヴィニオンは例年並みの40 hL/haで終わった。

## 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2012年から3年連続不作に見舞われたヴェイユーだが、2016年はさらに厳しい年となりそうだ…。未だかつてない遅霜の被害…。4月27日と29日の2日間、朝方の気温がマイナス5度を切り、ブドウの新芽の約80%が凍傷で黒く枯れてしまった。ミッシェル曰く、4月27日に霜が降りた時は、まだ耐えられる程度の被害に収まっていたが、29日の2回目の霜で完全に希望を絶たれてしまったようだ。今年の霜の大きな特徴は、普段は霜に当たらない上方にある風通しの良い畑が100%霜にやられ、わずか2kmほどしか離れていない下方にある畑が全く無傷だったことで、通常は、風通しの悪い下の畑の方が朝露がたまりやすく霜にかかりやすいのだが、今年は全く逆の現象が起こった。30年以上畑に従事するミッシェルでさえ初めての経験で、なぜ高い位置にある畑だけが霜の被害に遭ったのか全く理由が分からないのだそうだ。

今年は、ブドウだけではなく、野菜も果物も甚大な被害に見舞われているシュヴェルニー。ミッシェルが言うに、2016年は4年に一度のうるう年に加えて、新月が1年で13回あるイレギュラーな年で、新月が13回通る年は農作物が不作の年と昔から言われているようだ。

現在のところ、畑はミルデューの猛威にさらされているが、畑が低い位置にあるピノノワールとムニユピノは辛うじて霜の被害を逃れ多少なりとも収量を確保できそうだが、一方、ソーヴィニオンはほとんどの区画が霜に当たり絶望的な状態だ…。アルノーは現在、ミルデュー対策のためバカンス返上でほぼ毎週畑の散布に出ているが、ソーヴィニオンの畑については、今年の収穫のための予防散布ではなく、来年のブドウの枝を残すために散布を行っているという何とも悲しすぎる状況だ…。

どうにか近年続く困難を乗り越え、再び通常の軌道に乗ってほしいと願っている！

(2015.8.3.のドメーヌ突撃訪問より)